授業改善等に関する報告書（2019 年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS（Lerning Management System）manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

［2019（後期）英文学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
近代イギリス文学・文化演習ｄ	土屋　結城	メアリー・シェリー作の『フランケンシュタイン』を読み、作品の読解並びに19世紀のイギリスについての理解を深めることを目的とした授業である。充分に回答の時間を取ったはずだったが、回答率が低かった。アンケートの結果では、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「双方向授業等の工夫がなされていたか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.50~5.00の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、アンケートの回答率を上げること、事前事後学修をより充実させること、並びに学生の関心を継続できるような工夫をすることが挙げられる。
現代アメリカ文学・文化演習ｆ	深瀬　有希子	アンケートへのご回答をありがとうございました。現代アメリカ史に関する原書を読むということで、発表の準備の大変だったかと思いますが、みなさんの協力で教科書を読み切ることができました。卒業されたあとにも、世界を知るための一助となれば嬉しく思います。
近代イギリス文学・文化演習ｂ	諏訪　友亮	受講生の皆さんへ 期末ペーパーの執筆、お疲れ様でした。 書き慣れている学生もいれば、まだまだ論文の作成自体をよく分かっていないのかなという学生も見受けられました。 特に気になったのは、引用の仕方です。文献から引用した箇所はカギカッコで囲み、自分と他者の意見を区別するのは論文の鉄則です。卒業論文の執筆過程で、指導教員からの注意が入ると思いますが、事前に引用方法の大切さは意識しておきましょう。 以下は、主に皆さんの論文に共通して見られた改善点です。 ・体裁（段落の1字空け、タイトル、序論・本論・結論の構成、など）を復習しましょう。 ・パラグラフ・ライティング（トピック・センテンスを文頭に置く、トピック・センテンスを補強するサポーティング・センテンスを作る、など）を復習しましょう。 ・粗筋をなぞっただけの部分が目立ちます。問いや問題を設定し、議論を展開できるようになりましょう。 ・引用箇所はカギカッコで囲み、文献の該当ページ数まで明記しましょう。 授業運営の反省点としては、グループ分けを行ったにも関わらず、効果的なグループワークができなかったことです。短編の内容確認に多くの時間を割いてしまったため、次からは授業時間内に設定された問いについてグループで考え答えてもらう、学生同士でフィードバックを行う、などの授業形式にします。 受講生のほとんどが小説を卒業論文で取り上げると思います。この授業でジョイスの短編を読み解いた方法を使って、卒業論文にも果敢にチャレンジしてもらえると嬉しいです。
アメリカ文学史ａ	稲垣　伸一	毎回授業中に書いてもらったコメント・シートには多くの学生がたくさんコメントや質問を書いてくれていて、毎回読むのが楽しみでした。また、それをもとに次回の授業でフィードバックして、それが前回の復習になり、また授業の内容を広げることにもつながりました。一つの長い文学作品を読むには根気が必要ですが、読んだ人にしか味わえない楽しみもあります。これからもできるだけたくさんの作品を読んでいただきたいと思います。
英語圏の詩	島　高行	アンケート、コメントありがとう。 身近なところで使われているレトリックに意識的になってくれればうれしいです。
Introduction to TOEFL	深瀬　有希子	アンケートへのご協力をありがとうございました。manabaに、宿題や課題を記すなど、具体的なコメントも感謝しております。今後も改善に努めていきたいと思います。

［2019（後期）英文学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing b	諏訪　友亮	受講生の皆さんへ 期末エッセイの執筆、お疲れ様でした。 1000語以上の英語論文を書くのは初めての経験だったでしょうし、少しハードルが高かったかもしれませんが、エッセイの出来は非常に良かったです。 引用の方法（引用箇所をダブルクォーテーションマークで囲む、ページ数やウェブの場合は段落番号などを書く、Works Citedに必要な書誌情報を入れる）などが身についていなかった人は復習をお願いします。また、一部の人のエッセイに共通して見られたのは、″I″を主語にした文の多用、自分の経験を語る文章でした。これは、主観的な文章、時には感想文になってしまいます。授業でも触れましたが、人文学の文章で″I″が使われることはあるものの、それでさえ非常に稀です。「私」を出すことで読者の共感や関心を引くのではなく、問題の意義や論理によって読者を説得する書き方を目指しましょう。 だいたいにおいて評価に差がついたのは、教科書の課題3回分でした。返却時の赤のコメントに加え、フリーの校正ソフトGrammarlyなどで自分の英文を再考してみましょう。 今日以降、Ch.6の課題をメールで返却します。
Paragraph Writing b	西野　方子	教科書を進めるにあたり少し急ぎ足なところもあったかもしれません。レポートやプレゼンの原稿、または論文を執筆する際、この授業で学んだパラグラフの書き方を思い出してもらえると嬉しいです。半年間ありがとうございました。
Paragraph Writing b	島　高行	ファイナル・レポートは頑張って書いてくれたものが多かったです。 英語は少しづつでも毎日学びましょう。
Paragraph Writing b	猪熊　作巳	週2回の長丁場でしたが、こつこつと取り組む学生が多くみられたクラスでした。自信と積極性を身につけ、地道に努力を積み重ねましょう。
Basic Grammar b	村上　まどか	コメントでこれほど好評を得たのは初めてだと思うので、喜んでいます。得意分野ということもあり工夫してプリント作成したり、進度は気にせず前回を振り返る説明を多くしたのがよかったのでしょうか。 　ことごとく「まったくあてはまらない」と答えた学生さんは、アンケートの直前に私から「失格」を告げられた人でしょうか。語学は授業に出席してコツコツと努力することが大切ですから、投げやりにならずに取り組んでいってください。 　もうすぐ２年生、ますますがんばるように！
Basic Grammar b	大関　啓子	基本的な文法事項を見直すことができた、あるいは英語を読む力を認識したといった感想があり、毎週小テストを重ねた甲斐がありました。これからは、自分でその文法を使って、毎日読む練習を重ねてください。
Intensive Reading b	諏訪　友亮	受講生の皆さんへ 期末試験、お疲れ様でした。 思ったよりも試験結果は良く、教科書をしっかり読み直した人も多かったようで、良い英語の勉強の機会になったのではと思います。 反省すべき点は、文学部という先入観から文学研究ど直球の教科書を採用したものの、文学作品が好き、文学作品を様々な角度から読み解いてみたい、と考えている人はほとんどいないという事実について教員の理解が授業開始後になってしまったことです。イギリスの高校生向けとは言え、文学、文学批評に興味がない学生にとっては非常に辛い教科書の内容だったのではないでしょうか。次年度以降は、Alice In Wonderlandなどの馴染みのある文学作品や文化寄りの教科書を検討します。 今回の授業で英語の文学批評に興味が持て、英文もある程度読めた人は、大学生向けの注釈本（York Notes Advanced、CliffsNotes、Student Guide to～）などにすでに挑戦できるレベルに到達しています。3年以降の専門科目で要求される発表やレポート執筆では、ぜひそうした英語の参考書にも挑んでみてください。
イギリスの文化と社会	志渡岡　理恵	イギリスの文化と社会について、受講生ができるだけ多くリサーチしたくなるテーマを見つけられるように、かなりの量の情報と資料を提供した。寄せられたコメントには、「難しい内容で理解できないところもあったが、ついていくことができた」、「内容が濃くて受けがいがあった」、「女性参政権運動や服装の変化など、今まで全く知らなかったことを詳しく知ることができた」という頼もしいものがあり、受講生の知的好奇心と学習意欲が感じられて嬉しい。 　今後の改善点としては、双方向授業の工夫が挙げられる。講義形式の授業はどうしても一方的に説明しがちなので、短い受講生同士のディスカッションを採り入れたり、リアクションペーペーへのフィードバックの比重を増やすなど試みたい。

［2019（後期）英文学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
現代アメリカ文学・文化演習ｄ	佐々木　真理	毎回のプレゼンテーションを皆さんよく頑張ってこなされたと思います。女性作家の作品における女性表象の変遷について理解が深まったことを願います。14回は授業時間ぎりぎりまで説明となり、15回は試験で回収とチェックに集中していたこともあり、授業アンケート提出を十分に周知することができなかったのが反省点です。
Intensive Reading ｂ	大関　啓子	毎週の小テストは、皆さんの負担になるかと思いましたが、役に立ったという感想があり、やり続けてよかった。これからも、自分で毎日英語を訳さず読む練習を重ねてください。
Intensive Reading ｂ	土屋　結城	英語でのリーディング能力向上を目的とした授業であり、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.67~4.80の評価を得た。授業の目的、内容に関して理解を得られたと思う。一方で、学修時間については課題が残った。授業の性質上、予習時間を増やせるような取り組みを今後心掛けたい。また、英語力が本当に向上したかどうかは満足度の調査からは分からないので、その点は引き続き観察が必要と思われる。
多読演習	佐々木　真理	英語を読むスピードが速くなった、英語を読む習慣がついた、といったコメントが寄せられていたので、この授業の目的を達成することができたのではないかとうれしく思います。皆さん、毎回意欲的に多くの多読本に取り組まれており、よく努力されました。予習と復習の時間をもう少し取るように課題を工夫するのが今後の課題です。
英語学演習ｂ	猪熊　作巳	緻密な論理の積み重ねを要求するタフな授業だったと思いますが、具体的事象に対して最も合理的な説明を希求する姿勢を感じてもらえていれば何よりです。
卒論セミナーｂ	島　高行	皆さんよく頑張りました。 卒論は大事に保管して、いつかまた読み返してみてください。
卒論セミナーｂ	土屋　結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業であり、アンケートの告知を忘れたため回答率は低かったが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「双方向授業等の工夫がなされていたか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4050~5.00の評価を得、さらに全体的な満足度も5.00という評価だった。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。課題としては、アンケートの回答率を挙げるために告知に十分な期間を取ること、並びにさらに専門的に学びたいと思うような意識づけをすることが挙げられる。
卒論セミナーｂ	深瀬　有希子	アンケートへのご回答をありがとうございました。どの方も、充実した卒業論文が仕上がり、大変に嬉しく思っております。卒業後のご活躍をお祈りしています。
女性と英語圏文学ｂ	佐々木　真理	アメリカの女性作家のおかれた状況や変遷、作品について、理解が深まったとのコメントが多かったので、この授業の目的はある程度達成できたのではないかと思います。女性作家の作品に興味を持ってもらえたら嬉しく思います。受講者数が150名近くと非常に多かったこともあり、授業内でのフィードバックが難しかったことが反省点です。試験問題の問題文がわかりにくいとの指摘があったので、来年度の課題とします。
英語学演習ｄ	村上　まどか	持ち込み不可のテストにしたら、あまく採点しても数人落ちた人がいて、気の毒な気もします。「十分に理解できた」人が１人だけというのも気になります。英語学演習は、（少なくとも私の科目は）期末試験よりも、ほぼ毎回の提出物をしっかりやって、自分がどこをどう間違えたか次回に解決することが大切であり、それをやっていればテストの高得点にもつながるはずです。
卒論セミナーｂ	稲垣　伸一	履修した学生は皆、毎週のように面談を受け根気強く卒業論文に取り組みました。1年間お疲れ様でした。
卒論セミナーｂ	志渡岡　理恵	まず、授業内でのアンケートが実施できなかったので回答者が少なかったことが反省点である。「卒論セミナーb」は、後半は個人面談が主になるので、早めにアンケート回答への呼びかけを行うように心がけたい。 　寄せられたコメントには、「資料などに関して仲間と情報交換できた」、「計画的であったため、最後に苦労はしなかった。自分のペースに合ったアドバイスを頂けたので、やりやすかった」とあり、受講生が協力し合いながら、それぞれ計画的に卒業論文執筆を進められたことがうかがわれ、よかったと思う。

［2019（後期）英文学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語学概論ｂ	村上　まどか	大人数に教える講義科目は、何年たっても一部の人たちにしか受けが良くない、といってあきらめてしまってはダメなので改善方法を考えました。「大教室で指すのは止めてほしい」―では、manabaですぐに結果がわかるミニテストにでもしましょう。「教科書を読むだけでなく～」―このように言う学生は教科書をちゃんと買ったのでしょうけれど、そうでない人もいるので、教科書に言及することになります。それに、予習復習時間が「なし」が４０%、「３０分未満」が３０%の講義科目では、教科書を読むことも止めるわけにもいきません。
イギリス文学・文化講義ｂ	大関　啓子	一部の人ですが、いろいろなジャンルからのアプローチの講義を楽しんでくれたという意見があり、頼もしく思えました。あと一年ですが、この講義を続ける力を得ました。皆さんも、一方からだけ見るのでなく、時には異なった角度から見直すという余裕を持ってみてください。
卒論セミナーｂ	佐々木　真理	全員が無事に卒業論文を提出できて何よりです。皆さん、よく頑張って執筆されました。授業アンケートについては、特にこちらが指導しなかったので、提出者が０となってしまったのが反省点です。
英文入門セミナー	稲垣　伸一	イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学の導入として読んだ英文については、よく予習してきている学生とほとんど読んできていない学生との差が大きかった印象を持ちましたが、授業ではほとんどの学生がグループで話し合いながら理解しようと努力していたようでした。グループ・プレゼンテーションは全体にとても準備されていて、よい発表が目立ちました。2年生になると専門科目が増えてきますが、どうかがんばってください。
英文入門セミナー	志渡岡　理恵	まず、アンケート回答者が少なかったことが反省点である。最後の回が合同授業（ＩＴＰテスト）で、授業内でのアンケート実施ができなかったことが原因の一つと考えられる。アンケート回答への呼びかけを早めに行うようにしたい。 　この授業は、導入と試験以外は、合同講義（3回）、リーディング（6回）、プレゼンテーション（4回）という構成で、前半はインプットが、後半はアウトプットが主となる。寄せられたコメントには、「レポートの書き方やプレゼン力が身についた」、「プレゼンテーションなどを通して同じクラスと人とコミュニケーションを取ることができた」とあり、受講生は、アウトプットに関しては手ごたえを感じたようである。インプットの授業の部分に工夫が必要である。
英文入門セミナー	土屋　結城	英文学科の専門教育への学びの入口となる授業だが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.72~4.89の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。さらに双方向性についても4.78と他の授業に比して高い評価だったため、この方向性を継続したい。今後の改善点としては、グループワークやレポート準備の段階から積極的にコミュニケーションを取り、学生の作業に関わっていくようにする必要がある点と、学生の関心を継続させるため、関連資料などを紹介するなどの工夫を図る必要がある点を挙げられる。
英文入門セミナー	村上　まどか	大教室で呼びかけたら回答者が少なかったということもありますが、設問に対して「とてもよくあてはまる」から「どちらともいえない（中間）」までの回答でほとんどが占められていて、よかったと思います。それにしても７人中２人が予習や準備が皆無って、まさかプレゼンはそうではなかったでしょうけれども、英語のリーディング教材は、ちゃんと読んできてくださいね。２年生からますます英文を読む量が多くなりますから、がんばってください。

［2019（後期）英文学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英文入門セミナー	諏訪　友亮	受講生の皆さんへ 半期お疲れ様でした。 後期はレポート執筆に加え、毎回の授業準備やプレゼンテーションも重なり、忙しい授業だったのではと思います。 期末レポートについて多く見られた問題点は中間レポートの時とほとんど同じです。文献の引用が十分にできなかった人は復習をお願いします。 こちらの反省点としては、英文を読むことを授業の中心にしてしまったため、前期に学習したレポートの書き方をほとんど振り返れなかったことです。前期レポートのフィードバックを見直しておいてください、とは何度か口頭で伝えたものの、それだけでは足りなかったと痛感しています。次回からは、前期に学んだ内容の復習をできるだけ授業に組み込んでいくつもりです。 1年を通して学んだ論文の書き方は、2年次以降の専門科目において必ず要求される能力です。パラグラフ・ライティング、序論・本論・結論の構成、引用方法など、この授業で得られた知識を大いに活用していきましょう。また、ある問題について思考するという行為は、大学卒業後も皆さんが一生行っていくことです。考えることを避けない、止めない、このことは覚えておいて欲しいです。
近代イギリス文学・文化演習ｆ	島　高行	アンケートの回答ありがとう。 卒業後も、作品を思い出したら再読してみてください。 新たな発見があると思います。
イギリス文学史ｂ	土屋　結城	18、9世紀から現代に至るまでのイギリス文学の歴史を理解し、それとともにイギリスの文化、社会についての理解を深めることを目標とした授業である。アンケートの結果では、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.23~4.46の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、3.82と評価がやや低かった双方向性と、事前事後学修の充実並びに学生の関心を継続できるような工夫をすることが挙げられる。双方向性に関しては、フィードバックの充実を今後も図りたい。また、学生の関心を喚起できるような関連資料も積極的に紹介していく必要があろうと思う。
Basic Reading ｂ	稲垣　伸一	内容のある英文をほとんどの学生がよく準備して読んでくれたと思います。試験でも複雑な構造の文の構造を見抜いてよく読めていた学生が多かったです。英語を読む力はこの授業で練習したようにじっくりと分析的に読む練習と、速く内容を理解する速読の練習、その両方をやるべきです。2年生になってもがんばって難しい英文にどんどん挑戦してみてください。
Basic Reading ｂ	西野　方子	特に小説などは少し難しく感じることもあったと思いますので、配布資料をもう少し工夫しようと思います。これからも文法を意識しながら英文を読むことを続けてもらえたら嬉しいです。半年間ありがとうございました。
中世イギリス文学・文化演習ｂ	大関　啓子	アンケート回答数が少ないので、よくわからないのですが、中世という現代とはかけ離れた分野の演習で、準備期間も十分にないのに、皆さん共同で発表をし、レポートをまとめたことは、何か残ったものがあると思います。これからも、未知の分野に挑戦してください。
アメリカ文学・文化講義ｄ	深瀬　有希子	アンケートへのご回答をありがとうございました。私自身にとっても思い入れのある時代についての授業ですので、励まされました。他者とそして己自身を理解するための一助となるように、今後も内容の改善に努めていきたいと思います。
近代アメリカ文学・文化演習ｂ	稲垣　伸一	グループによる発表では、ほとんどのグループがよく作品を読んでコメントを考えていたと思います。英文は読むのが難しかったと思いますが、多くの学生が努力して読んでいました。原書で文学作品を読む経験を積んでくれればこの授業は成功です。皆さん、お疲れ様でした。
現代イギリス文学・文化演習ｄ	志渡岡　理恵	演習ということもあり、授業は、毎回3～4人の受講生の作成したハンドアウトを見ながら発表を聞き、他の受講生と教員がコメントするというかたちで進めた。受講生はほぼ全員が見事なハンドアウトを作成し、よい発表を行ったと思う。各自が、テクストの精読と背景をなす歴史・文化との関係のリサーチを行い、自分なりの解釈を示すことが目標だったが、それはかなり達成できたと思う。「小説から時代背景などを読み取る力が以前よりもついたと思う」、「論理的に考える力がついた。アガサクリスティーの作品に触れて、イギリスの時代背景を知ることができた」というコメントからもそれがうかがえる。

［2019（後期）英文学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナーｂ	難波　雅紀	前期の「卒論セミナーa」では、主に個人指導をとおして卒論のテーマや題材を確定させ、論文の構想・構成を各自で練り上げることに取り組みました。後期の「卒論セミナーb」では、練り上がった論文の構想・構成をより具体化し、卒論の目次をまず作成しました。その上で、目次に沿うような流れで論文原稿の執筆と推敲を重ねていきました。ひとり平均12回の個人指導を行ない、最終的な卒論完成に至りました。 卒論作成に係わって多くある誤解は、原稿を書くという行為が作業全体の大半を占めるというものです。原稿用紙換算で60枚以上になる文章をひとつのテーマで書くためには、事前に、テーマと題材の結びつけ方、それを具体的に論じていくストラテジー（戦略）を入念に立て、それに係わる資料の収集と整理を十分に行なう必要があります。そして、実はそれに費やす時間や労力の方が、文章を書く行為に割くよりも圧倒的に多いのです。卒論作成を首尾よく進めるためには、まずこの事実をしっかり認識しなければなりません。 そういうわけで、書く前提として不可欠な上記の作業にあまり重きを置かなかった学生は、実際に文章を書いているうちに、何をどう書けばいいのか分からなくなってしまい、立ち止まってしまうことが多かったように思います。文章を推敲したくても時間がなかったのではないでしょうか。 卒論からは解放されても、人間である以上、書くという行為から離れることはできません。書くということは、自分の語彙で自分の内面や考えを上手く他者に伝える、人間にとっての必須の手段だからです。言葉は儚いし脆いものですが、そのことを分かって丁寧に、誠意を込めて書くことが大切です。
英語学演習ｆ	野村　美由紀	４年生の後期の科目で卒論や就職関係で忙しく欠席回数が多めになりがちな事が授業内容の理解しにくい一因になったかもしれません。授業内容も高校までには習わないような難しい部分があったとは思いますが、皆、内容をよくまとめて発表してくれましたのは良かったです。できる限り分かりやすい授業になるように授業準備を頑張りたいと思っています。
アメリカ文学・文化講義ｂ	難波　雅紀	アメリカで生まれ、世界中に展開するようになった音楽ジャンルのひとつがジャズですが、その誕生から現代までの歴史的展開を俯瞰することが授業の第一のテーマでした。そこでは、各時代の社会状況・文化状況を反映してスウィングやビバップ、ハードバップ、クール、モード、フリーなどのジャズのフォームが出来上がった点に注目しました。そして、それらを踏まえて、ジャズのスタンダード歌詞をリリックとしてとらえ、そこに歌い込まれているアメリカ的な物語性、精神性を読み解いてみました。これが授業の第二のテーマでしたが、そこでは歌詞を音に焦点を当て、英詩としての音韻構造を伝統としてどう継承しているかも考察しました。そうした中で、アメリカやアメリカ人とは何か、というアイデンティティについて理解を深めていくのが授業の主眼でした。 授業では、実際に学生それぞれがスタンダード歌詞を決められた視点から読み解くというアクティヴラーニングがかなりのウエイトを占めました。歌詞をリリックとしての文学的内容だけでなく、音韻論的、音楽的（楽理的）な側面から見なければならず、最初はかなりてこずったように思います。でも、8回に及ぶ小レポート（リアクションペーパー）をチェックして感じたのは、多くの学生が徐々に理解を深めていっているということでした。そうした普段からの努力のと、期末レポートによって成績評価しました。以下に評価方法の詳細を伝えておくことにします。 【成績評価の方法】 ①期末レポートの点数：60点（満点） ［評価の内訳］1.歌詞の日本語訳：10点（満点） 2.歌詞の音韻上の特徴：15点（満点） 3.歌詞の解釈（社会的、文化的意義）：20点（満点） 4.曲目解説：15点（満点） 5.引用文献および参考文献の明示 〇評価ルールⓐ：上記の1~4に関しては、記述内容の精粗より0~10点の範囲で評価 〇評価ルールⓑ：上記の5は、ない場合にのみ5点減点 ②授業レポートの点数：計8回で各回5点（満点）=合計40点（満点） +A=5点　A=4.5点　B=3.5点　C=3点　D=2点 ［評価の内訳］1.歌詞の日本語訳 2.歌詞の音韻上の特徴 3.歌詞の解釈（社会的、文化的意義） 〇評価ルールⓒ：上記の1~3がすべて揃っていて、かつ内容的に申し分ない場合に+A 〇評価ルールⓓ：上記の1~3がすべて揃っていてA ③得点：①＋②=100点（満点） ④成績評価　+A：100~90点　A：89~80点　B：79~70点　C：69~60点　D：59~0点 以上

［2019（後期）英文学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
翻訳演習	志渡岡　理恵	まず、授業内のアンケート実施ができなかったため、回答者が少なかったことが反省点である。最後の回では、アンケート回答の時間を十分にとれるようにしたい。 　翻訳の授業を担当したのは初めてだったが、翻訳には、かなり高度な英語を読む力、リサーチ力、日本語で表現する力が必要で、受講生の習熟度に大きなばらつきが見られたこともあり、苦労した。受講生の反応を見ながら、教材や授業の進め方を考え直し、試行錯誤した。教材を短いパッセージのアンソロジーにして、ポイントを絞り、講義と演習の割合を半々くらいにした方がよかったかもしれない。